

授 業 科 目 名	ことばと遊び	教 員 名	工藤 道子	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	選択
授 業 形 態	演習	担当形態	単独		保育士	必修
					こども音楽療育士	
科 目 番 号	HY0101	配当年次	1年前期	卒 業 要 件	小幼コース	選択
単 位 数	2単位				幼保コース	必修
科 目	大学が独自に設定する科目（幼稚園）					
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標	絵本や紙芝居など、子どもの遊びを豊かに展開するための言語表現にかかわる知識・技術の習得をするとともに、子どもの表現活動を支援する教材の活用や具体的な展開について理解する。					
到 達 目 標	<p>(1) 子どもの発達と児童文化財との関係および遊びとの関連を理解している。</p> <p>1) 子どもの発達に合った絵本を選び、読み聞かせの技術を身に付けている。</p> <p>2) 昔話、民話、神話の絵本の特性を理解し、保育指導に活用することができる。</p> <p>3) 紙芝居の特徴や歴史を理解し、子どもの発達にあった紙芝居を選び演じることができる。</p> <p>(2) ストーリーテリングの方法を理解し、具体的な保育を想定した展開案を作成すると共に技術を身に付けている。</p> <p>(3) 絵本から人形劇の台本を作成し、登場人物の個性がわかる表現技術を身に付けることができる。</p>					
授 業 の 概 要	絵本や紙芝居など、子どもの遊びを豊かに展開するための言語表現にかかわる知識・技術を習得するとともに、子どもの表現活動を支援する教材の活用や具体的な展開について学ぶことを目的とする。本授業では、まず、子どもの発達と絵本・紙芝居などの児童文化財との関連および遊びとの関連について学び、さらに、絵本の読み聞かせ・人形劇やペープサート、ストーリーテリングの方法・技術や保育指導の展開の仕方について学んでいく。授業形態は、演習とする。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：オリエンテーション 授業目標と授業計画の概要、単位の認定について理解する。また、絵本とは何か、絵本の教育的意義について理解する。(目標(1)-1), 2), 3))</p> <p>第2回：子どもの発達と絵本1 子どもの年齢に応じた絵本（0歳～3歳）について、あかちゃん絵本はコミュニケーションの基礎を育むことを理解する。更に絵本の特徴と読み聞かせのポイントについて理解する。(目標(1)-1))</p> <p>第3回：子どもの発達と絵本2 子どもの年齢（4歳～6歳）の発達の道筋に沿った絵本の選び方を理解するまた、絵本の種類について学び、創作物語絵本の面白さについて考える。(目標(1)-1))</p> <p>第4回：子どもの発達と絵本3 昔話・民話・神話の絵本の特徴について理解する。イギリスの民話「三匹のこぶた」の残酷な結末の必要な訳について理解する。また、「おおかみと七ひきのこやぎ」の画面構成とハラハラドキドキの関係について考える。(目標(1)-2))</p> <p>第5回：子どもの発達と絵本4 さまざまな絵本（仕掛け絵本・写真絵本・文字なし絵本）について、その特徴を理解する。更に、絵本と子どもの認識について理解する。(目標(1)-1))</p> <p>第6回：子どもの発達と絵本5 絵本を用いた保育指導の展開について、①絵本の導入、②絵本の展開、③絵本の発展の具体的な指導の在り方について理解する。また、子どもにとっての絵本の魅力とは何かについて考える。</p>					

	<p>(目標(1)-1))</p> <p>第7回：子どもの発達と紙芝居 紙芝居の特徴や紙芝居の歴史について理解する。紙芝居を用いた保育指導の展開について学び、紙芝居の選び方、紙芝居の演じ方について理解し、実際に演じてみる。(目標(1)-3))</p> <p>第8回：子どもの発達と人形劇1 人形とは何か、人形遊びの人形の種類について知る。世界各地の人形劇の特徴について学び、人形劇を用いた保育指導の展開について理解する。折り紙で指人形を作成し、演じてみる。(目標(3))</p> <p>第9回：子どもの発達と人形劇2 ペープサートの歴史について知り、ペープサートの特徴や種類について理解する。用意したペープサート(「こぶたきつねこ」「食べ物クイズ」「動物、かっぱ、おばけ)を使って、お話を作り実践する。(目標(3))</p> <p>第10回：ストーリーテリング1 ストーリーテリングの特徴について学び、良い語りの方の出し方や動きと表情について知る。ストーリーテリングを用いた保育指導の展開について理解し、「ねずみ経」を聞き、グループで分担し、語る演習をする。(目標(2))</p> <p>第11回：ストーリーテリング2 ストーリーテリングの実践をする。「はだかの王様」を題材に、①場面を設定する、②重要な場面を絵で描く、③一つひとつの場面のお話を作る、④語りを練習する、⑤実演し評価する。(目標(2))</p> <p>第12回：教材の作成と活用1 絵本から人形劇をつくる方法について理解する。6人から7人のグループを組み、図書館で台本となる絵本(ストーリーがあるもの、話の展開が分かりやすいもの、人形の種類を想定)を選定する。(目標(3))</p> <p>第13回：教材の作成と活用2 絵本のストーリーをもとに、場面設定と台本作りをする。役割を決める(セリフとナレーション)、人形・背景などの製作の役割分担を決める。(目標(3))</p> <p>第14回：教材の作成と活用3 グループごとに練習・製作をする。夏休み期間に人形等の製作を行い、グループで練習をする。(目標(3))</p> <p>第15回：発表会 各グループによる人形劇の発表をする。発表会の表現技術(手作りの人形の工夫、台本を見ずにできる、登場人物の個性が分る等)、台本(劇の始めと終わり、役割分担、時間配分等)の評価を行う。(目標(3))</p> <p>定期試験</p>
<p>学生に対する 評価</p>	<p>定期試験50%・発表会の表現技術30%・その保育の展開案20%</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
<p>時間外の学習 について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、授業の最後に次回の講義内容を伝えるので、事前に教材の活用について調べておくこと。 ・講義内容について確認し、シラバスの授業概要を参考に教材の作成や表現技術の習得に努めること。
<p>テキスト</p>	<p>特になし</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』 瀬田貞二『絵本論—子どもの本評論集』福音館書店 1985年</p>

	中村 柊子 『絵本の本』 福音館書店 2009年 他 いろいろな文化財・絵本（授業中に適宜紹介）
担当者からの メッセージ	特になし
オフィスアワー	授業の前後の時間（メール等でアポイントを取ること。）